

真っ白な雪原に踏み出せる魔法の靴

ひといき荘アウトドアサービスの藤井憲一郎さんは、山梨県と長野県に跨る八ヶ岳を主なフィールドに、夏はカヤック、冬はスノーシューのツアーを行なっています。スノーシューのツアーは、愛犬とともに歩く人気の企画をはじめ、北八ヶ岳や、満月の月明かりを頼りに雪原を歩くムーンライト・スノーシューなど。例年1月から3月は、ほぼ毎日スノーシューを履くという藤井さんに、スノーシューの魅力を探ねました。

— スノーシューツアーの1日 —

私が行っているスノーシューのツアーは、基本的にはワンデイです。たとえば北八ヶ岳なら、ピラタス蓼科スノーリゾートのロープウェイで山頂駅まで上がり、ゲレンデのそばを歩いて下りてきます。ルートは下り基調。部分的には登りもありますが、技術的に難しい所はなく、初心者でも歩ける場所です。

ツアーのスタート地点は、ロープウェイの山麓駅です。集合したらロープウェイで一気に山頂駅へ。山頂駅で準備体操やトイレを済ませたら、いよいよ歩き始めます。

スノーシューが初めての方も多くいますが、教えるようなことはあまりなくて、しいていえば装着の仕方と歩き方でしょうか。スノーシューはかかとが上がるので楽に歩けますが、そのかわりバックはできません。せいぜいそのぐらいです。歩き方のコツは花魁歩き。ゲストには「やる気のない歩き方が楽ですよ」と伝えています(笑)。

北八ヶ岳らしい立ち枯れた木々や樹氷の間を歩いたり、斜面を駆け下りたり。お昼になったら TENT を立てて、その中でランチです。メニューは、体が温まるチーズフォンデュやジンジャーティー。天気が悪くなって多少吹雪いたりしても、TENT の中はボカボカです。

ゆっくり休んでリフレッシュしたら、ふたたび雪の上へ。

途中で雪遊びをしたり、天気がよければ南アルプスや北アルプスの山々を遠望しながら、スタート地点の山麓駅まで戻ってきます。



— スノーシューの魅力 —

初めてスノーシューを履く方の多くが、真っ白な雪原へ誘うと、「そこを歩くことができるんですか?」と驚きます。道を踏み外しちゃいけないという感覚が根底にあるのかもしれません。でも、スノーシューは踏み外せるからこそおもしろい。

そもそもスノーシューは、道なき雪原を歩くための道具。もちろん、周囲の植生に配慮することは必要ですが、本来のフィールドは踏み跡のないオフトレイルです。これを使えば、初めてでもそこに行かれる。スキーと違って二足歩行ができれば誰でも楽しめるんです。入り口が広くて、優しい。それがいちばんの魅力だと思っています。



最近マイ・スノーシューを持ってくる人も増えてきました。常連さんも「自分の」スノーシューを持参されます。スノーシューを手に入れた人には、いろんな所を歩いてくださいと伝えています。

私自身は、ふだんはEVOアッセントを使っています。初めて買ったデナリも、いまだに現役です。デナリもEVOもロングセラーですが、見た目は変わっていても、ストラップの素材など、細かいところは年々進化していますね。MSRスノーシューの良いところは、第一に、乾雪から湿雪まで雪のコン

ディションにあまり左右されずにグリップ力を維持できること。地味なようですが、靴のサイズに合わせたフィッティングがしやすいことや、構造がシンプルで壊れにくく、メンテナンスしやすいことも大きなメリットです。たとえばバインディングのストラップは、フィールドでも簡単に交換可能。深刻なトラブルとは無縁なので、さまざまなレベルのゲストが集まるガイドツアーでも、安心して使えるんです。

ガイド
藤井 憲一郎

「ガイドブックには載っていない旅を」をテーマに活動する自然案内人。初心者歓迎のメニューと明るい人柄で、ツアーは連日大盛況。
<https://www.hitoiki.in>

